

令和3年6月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和3年6月24日（木） 午後3時15分～午後4時20分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	板山	英信
委員	廣田	光前
委員	宮本	麻里
委員	中村	亜紀
委員	松宮	誠也

4. 欠席者

委員	美濃部俊裕（教育長職務代理者）
----	-----------------

5. 出席事務局職員

教育部長	酒井猛文
次長	鵜飼康治
次長	清水伊佐雄
教育総務課長	服部稔
教育改革推進室長	中北隆尚
教育指導課長	笥敏弘
すこやか教育推進課長	宮本安信
幼児課長	中島尚子
教育センター所長	織田恭淳
教育総務課長代理	前嶋美和
教育総務課副参事	西川洋輔
教育総務課主事	伊賀並樹輝

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 28 号 臨時代理の承認について

議案第 29 号 学校運営協議会委員の任命について

日程第 5 協議・報告事項

(1) 旧七尾小学校の利活用について

日程第 6 その他

3. 閉 会

Ⅲ. 議事の概要

1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

中村委員、松宮委員

3. 会議録の承認

5 月定例会

特に指摘事項はなく、5 月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：読書活動についてですが、先日、小谷小学校が「子供の読書活動優秀実践校」の文部科学大臣表彰を受けました。本日午前中に小谷小学校にて、表彰を伝達させていただきました。

小谷小学校では児童の学力向上のため、読書を推進しています。子どもたちが本に親しめるよう行われた取組の結果、1 人当たりの年間の平均読書冊数が、平成 30 年度では、113 冊でありましたが、令和元年度には 183 冊にまで増加しました。このような取組が今回の表彰につながったわけでございます。

読書をするるとよいとよく耳にしますが、子どもたちに「先生何で本を読むのはいいの」と聞かれたときに、具体的に説明できる先生は多くありません。私自身も具体的に説明できないと思い、読書について調べました。

我々がいつからどのように言語を習得してきたかについて、ある研究では、1 歳前後に身近な人の言葉を聞くことから始まっているとありました。これが 5 歳前後になると爆発的に増え、大体 5 歳の平均で、6,000 語ぐらいの語彙数を獲得します。この語彙数を増やすためには、幼児期に読み聞かせを行うことが

非常に効果的であります。これは何も読み聞かせのイベントに行くということだけではなく、例えば寝るまで絵本を読んであげるということで語彙数が増えていくということです。語彙数が増えることにより、今度は自分で絵本を読むことができるようになり、文章を読んでその文章の意味を考えることができる「読解力」が育つことにつながります。そのため、幼児期の読書環境は子どもの学力に大きく影響しているということでした。

本を読むことによって、自然と語彙数が増え、未知の世界に対する目が開く。語彙数が増えることで、自分の考えや気持ちを文章で表現する力の育成にもつながると思います。これらのことから、子どもの成長にとって読書というのは非常に重要であると今改めて実感しているところでございます。

どこの幼稚園、保育園、認定こども園にも、紙芝居が置いてあります。動画など本以外の教材も多くなったと思いますが、紙芝居の持っている力、紙芝居によって物語を聞くということは大切にしなければならないと感じています。

次に、教育講演会についてです。読まれた方もいらっしゃるかもしれませんが、ベストセラーになっている「ケーキの切れない非行少年たち」の第2弾「どうしても頑張れない人たち」が出版されています。その著者である心理学者の宮口幸治先生に、今年の8月に市内の教職員に対してご講演いただくことになりました。コロナのご時世でございますので、1か所の会場に集めてではなく、オンラインで講演を聞く形で準備を進めております。

宮口先生は、認知力・対人力・身体力の向上を図り、子どもを支援するため、コグニティブ・トレーニングという手法に取り組んでおられます。現在、コグニティブ・トレーニングは、全国の小中学校を中心に多くの教育機関に取り入れられています。「ケーキの切れない非行少年たち」の中に、医療少年院の子どもたちに、この図形をこの紙に写しなさいと言ってもできないという話があります。この例は、視覚による認知の力が非常に弱い場合でしたが、様々な認知の力に注目して、子どもたちの発達上の課題に対応していかなければならないということが書かれております。宮口先生は、発達上の課題がある子どもたちに社会に適用する力や、円滑な人間関係を築く力をつけることが今非常に重要であると考えられています。

長浜に住んでいると、仕事の後や休みの日に有名な先生の講演会を聞く機会が少ないと思います。今話題の、そして最先端の研究をされている方の話を聞いていただくことで、長浜の子どもたちの成長につながるとともに、よい学びの機会になればと思います。

最後でございますが、今週で、全小学校、中学校、義務教育学校の学校訪問が終了しました。県教委の担当職員と一緒に訪問をさせていただきました。今日の湖北中学校をはじめ、どの学校でもICT機器を活用しながら子どもたちが勉強する様子を見せていただきました。中でも驚いた授業に、余呉小中学校のプログラミング学習が挙げられます。子どもたちがタブレットを操作し、ド

ローンを飛ばして、決められた地点へ着陸させるということをしていました。このような新しい授業も、今後は取り入れなければならないと改めて感じました。

明日からは、園訪問が始まります。教育委員の皆さまには、秋以降に幼稚園、保育園、認定こども園等を見ていただく機会を検討しておりますので、その際は率直なご意見等をいただければと思います。

中村委員：教育長のお話にもあったように読み聞かせをすることによって、語彙数が増えたり、多方面に興味が広がるのが望ましいと思います。私自身、小学校などで読み聞かせを行っている中で感じたことに、読み聞かせを聞くことの心地よさを経験してもらいたいということがあります。以前、教育委員をされていた西橋先生が、ある素行がよくない中学生が、読み聞かせを何度も聞くうちに、それを楽しみに学校に来ていたということを話されていました。その中学生には、ただ「楽しい思い出」として残っているのではないかと思います。読み聞かせによる学力向上は大切だと思いますが、まずは「読み聞かせ」や「朗読」の心地よさや楽しさを感じてほしいと思いました。

また、読み聞かせといっても、物語を読まなければならないというわけではなく、図鑑などでもよいと思います。一瞬でも没頭したり、空想にふけったりすることで、気持ちが落ち着くことができればよいと思います。

5. 議案審議

議案第28号 臨時代理の承認について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

議案第29号 学校運営協議会委員の任命について

教育長は事務局に説明を求め、教育指導課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：毎年他の委員と任命の時期がずれるのですか。

教育指導課長：はい。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

6. 協議・報告事項

(1) 旧七尾小学校の利活用について

教育長は事務局に説明を求め、教育総務課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：体験イベントというのは、観光客向けなのですか。

教育総務課長：観光客に限らず、地元の方にも体験していただきたいという計画で、まずは貯蔵で二、三年様子を見てから軌道に乗った時点で開催していき

いとお聞きしております。

松宮委員：これによる長浜市のメリットについて、どのように評価されたのでしょうか。

教育総務課長：まず、施設が閉鎖されている状態から利活用により有効に使っていただけるというところです。学校施設ですので、地域のご支援のもと育ってきた施設という面もございますので、地域に根差した部分も評価の対象になっております。例えば地元がイベントで使われたり、体育館とグラウンドをスポーツ団体が使われたりされていますので、継続して協力をいただけることも挙げられます。

また、ウイスキーの体験教室を開くことによって、長浜市のブランドとしてのウイスキーを紹介していただけるという長浜市のブランド化や、製造の部分で雇用の創出が見込めるということがメリットであると考えています。

松宮委員：公共施設を無償で貸し付けるということは、何か市に対するメリットがないといけないのではないかと思います。雇用の創出や観光で経済効果が起きればよいと思います。

7. その他

宮本委員：タブレットについて、自分の子どもから小学校で使っている話は聞いていましたが、実際に子どもたちが使っているところは初めて見ました。操作が苦手な生徒もいるのではないかと思います。多くの生徒がついていけると感じました。また、先生用のタブレットから生徒用のタブレットに対し、画面を停止して操作できなくする機能もよいと思いました。

授業の中で、自分の意見を色分けし、どれに一番近いかを考えるなど、視覚的な工夫をされていて分かりやすいと思いました。動画を編集して発表し、意見を言い合うことにも取り組まれていましたが、このようなことは社会に出たときに役に立つだろうと感じました。

松宮委員：長浜市版GIGAスクール構想の目的として個別最適な学びと協働的な学びと書いてありましたが、協働的な学びについては非常によくできるように使っていると思いました。

一方で、個別最適な学びについてはなかなか難しいのではないかと正直思いました。クラス一斉に同じことを学んで見ている状態が、個別最適な学びとどのようにつながるのか疑問に思いました。個別最適な学びという言葉から、できる人はどんどん進んでいくというイメージを私は持っています。授業のスタイルとして、クラス一斉に同じことをやっている以上は個別最適に結びついていかないのかなと思いました。

学校教育の目的をどう捉えるかにもよりますが、公的な教育のため、取り残されてしまう人を作らないことが一番大事であると思います。一方で、できる人の可能性を伸ばしてあげることとの兼ね合いをどう捉えるかが難しいと感じ

ました。タブレットを使用した授業は、子どもたち同士のつながりを強くするという意味で非常にメリットが大きいと思いました。

タブレットの機能について、タブレットに教科書のデータを全て入れることは可能でしょうか。教科書を忘れてしまっても、タブレットを見ることができると思います。紙の教科書が要らないということではなく、子どもたちの負担も少なくなるのではと感じ、そのあたりを合理的にできる部分があるとよいなと思いました。

教育改革推進室長：ご指摘いただきました「個別最適な学び」につきましては、本年度、経済産業省の補助事業を活用し、AI型教材「Qubena」を導入する予定です。対象学年は小学校6年生と中学校3年生であり、2学期以降導入する予定でございます。その効果を見極めた上で、次年度以降、活用の幅を広げていきたいと考えております。

教育指導課長：デジタル教科書について、小学校では、新しい学習指導要領になったことに合わせて、昨年から導入しております。中学校では、教師用のデジタル教科書について導入しております。中学校の学習者用デジタル教科書については、開発中のため今後の導入を検討しています。文部科学省でも、今後についてはまだ決まっていない状況で、精査されているところです。

教育長：今のご意見は、子どもが教科書を毎日時間割どおり学校に持ってこなくてもよいのではないかという意味合いのご意見ではありませんでしたか。

松宮委員：教科書を持ち帰る必要がなくなれば、忘れ物が少なくなるのではないかと思います、発言しました。タブレットに教科書のデータを取り込むことで、教科書の代わりにできないのでしょうか。

教育指導課長：現在のネットワークでは、市内の子ども全員が同時に使用することは難しいと考えております。今後、ネットワークの整備とともに考えていきたいと思っております。

清水次長：これからの教育を見ていくと、教科書がタブレット1つに収まって、子どもたちの生活、教育も変わっていくのだろうと考えています。ただ、今まで教科書を持ち帰って次の日にどのような勉強があるか、連絡帳をチェックするということは、子どもたちにとって、習慣づけや復習という意味で有益であったと考えます。

また、低学年の子どもにとって、教科書を指でめくることや、指示されたページを開けることは、目の動きや紙を触る感覚が養われると思います。今ご指摘の合理的というところと、時間はかかるが子どもたちが総合的に発達していく上でどのようなことが大事か、そのようなことを総合的に判断して、これからは検証していく必要があるかと思います。

廣田委員：学校の状況を見てみると、和気あいあいと、子ども同士の連携ができていると感じました。

タブレットを使っていると、文字を書かなくなってしまうことが心配だと思

いました。領収書を書いてもらうことがあります、大人ですら文字が書けないことがあります。今の子どもたちはもっと字が書けなくなるのではないかと感じました。

次に、タブレットを家に持ち帰ることができればよいなと思いました。家で、興味があることを調べることができる子どもたちの学習意欲も上がると思います。

最後に、直接感じる、五感を大切にしてほしいということです。実際に文字を書くだけでなく、実際に匂いや、寒さを感じてほしいと思います。例えば、蛍です。蛍が浮いている様子は、タブレットで見ることができますが、実際の光の明るさや真っ暗な中光る様子などは、現場に行かないと感ずることができないと思います。このような生のよさを感じることが、これからなくなっていくと思うので、大切にしてほしいと思います。

中村委員：操作が苦手な先生でも利用しやすいソフトがあるとは思いますが、ベテランの先生方はタブレットを使うことを負担に思われるのではないかと思います。普段のお仕事ですらお忙しいのに、苦手な先生は大変だと感じました。教育改革推進室長：特に中学校では、放課後に部活動があり、放課後の研修に参加することが難しい状況です。その中でも、当室の職員が直接学校に行き、隙間時間で研修を行っていきたいと考えております。

また、6名のICT支援員を配置しており、3週間に1回の頻度で学校と遠隔でつないで、各学校の質問などに対応していただいています。時間は90分で、現在、各学校で2、3回ずつ行っている状況です。

教育部長：見ていただいた湖北中学校の授業のような、ICT機器をうまく活用している授業は少ないのが正直なところです。導入から3か月経った段階で、全体がああのレベルに達しているのは理想であるという思いを持っております。

今、主に使っているソフトは、「ロイロノート」といい、先生の持っているタブレットから一定の指示を児童生徒に発信し、それを回収していくという仕組みになっています。先ほど事務局から説明があった特定の学年に入れるAI型教材「Qubena」は塾の教材に近いもので、それぞれの進度に応じて進めることができる形になってます。

これから、今日見ていただいた学校の状態が全体的に平準化されてきて、同じような歩調で進んでいく中で、各学校のICT担当の先生を中心に、自分たちで新たなソフトを組むといった工夫をすることで、それぞれ学校ごとの特色も出していければよいなと思います。

松宮委員：委員研修資料に教員のICT活用指導力の実態についての表がありましたが、全国と長浜市の数値に開きがあることが気になりました。単純な比較ができないのかもしれないとは思いますが、これについてどのように判断されているのか教えていただきたいです。

教育改革推進室長：この表は、文部科学省が毎年調査をしているものの抜粋でござ

ざいます。授業にＩＣＴを活用して指導する能力の数値であり、本市はまだＩＣＴ機器を整備したばかりのため、長浜市はそのスタート地点に立っているという、そのような状況で見ていただけたらと思います。

松宮委員：全国と表記されているところの数値は、全国平均というわけではなく、ＩＣＴ機器を活用した授業が進んでいる地域の数字という意味合いで捉えてよろしいでしょうか。

教育改革推進室長：全国平均でございます。ただ、全国の中でＩＣＴ機器の導入が進んでいるところもあるため、本市との差ができてしまっています。長浜市においては、これから少しずつ上がっていくよう取り組んでまいります。

教育長：ＩＣＴ機器の活用については、市議会でも質問を受けています。私は、やはりある程度の時間は必要かと思います。導入後、一気に効果を上げることが期待したいですが、なかなか学校の先生方もそれだけが業務ではないため難しいと思います。

長浜市では、ＧＩＧＡスクール構想とは別にＩＣＴ機器の導入を計画しており、これまでも段階別の研修は行っています。今後は、さらに力を入れ、県の研修等も活用しながら指導力を高めていく必要があると考えています。

ＩＣＴ機器の活用に対して、若い先生は積極的だと感じました。チャレンジといいますか、うまくできるできないにこだわりすぎず、やってみようという先生が多いです。

また、災害時や新型コロナウイルス感染症のような緊急事態が起こったときに、タブレットを家に持って帰り、遠隔授業を行うことも想定しています。通信環境の調査を行い、環境が整っていない家庭を対象に、貸出しするルーターを整備しました。そのような事態がないのが一番ですが、昨年のような状況がもし自然災害等で起こった場合でも、ある程度の対応は可能であるという状況です。

最後に、本日は一斉に研修という形で見ていただきましたが、２学期以降は公開授業を行う学校も出てくると思います。全員そろって見ていただくことは、お仕事のご都合もあり難しいかと思いますが、案内は差しあげますので、お時間がありましたら見ていただけると幸いです。

８．閉会

教育長から閉会宣言があった。